



山上のカフェから  
夕夜景を眺める人々。

## 香川大学

香川大学は、高松市と連携した観光振興プロジェクトの一環として、2017年8月から9月にかけての10日間限定で「屋島山上ちようちんカフェ」をオープンした。

古くからの観光地である高松市屋島は、ピーク時には246万人の旅行者が訪れていたが、現在はその2割程度まで落ち込み、観光再生が市の課題となっている。

プロジェクトでは、「屋島の夕夜景」と、香川の伝統工芸である「讃岐ちようちん」に着目。両者を組み合わせることで、この場所でしか体験できない魅力づくりを提案し、山上にある茶屋のスペースを借りて学生運営によるカフェをオープンした。2016年には1,027人、2017年には2,279人が来店し、地域の新たな魅力づくりに貢献することができた。

同大学では、自治体との連携による地域活性化プロジェクトを全学的に推進しており、「讃岐ちようちん」を活用した学生プロジェクト「TERASU」の活動が始まるなど、継続的な地域の魅力づくりに貢献している。



屋島山上ちようちんカフェを  
期間限定オープン



## 地元金融機関などと連携した 起業家教育がアツい

### 宮崎大学



「宮崎大学ビジネスプランコンテスト」の様子。

宮崎大学では、地元の金融機関や地元企業などの連携・協賛を得て、2017年に「第1回宮崎大学ビジネスプランコンテスト」を開催した。全学の参加学生を対象に、説明会やビジネスプラン作成講座、プレゼン講座などを複数回実施し、学生の創造力やチャレンジ精神、自ら考え解決する能力などを養成した。

同コンテストでグランプリを獲得したチーム「TOBE」は、チーム代表の工学部4年木下大輔さんが、航空券のネット予約時に求められる煩雑な障害者手続きに疑問を感じたことから、それを解消するデータベース提供サービスという新たな社会インフラを具体性あるプランとして提唱。木下さんらは2017年12月22日、九州最大規模の学生ビジネスコンテストである「第17回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に出場し、見事グランプリを獲得した。

今、地元金融機関などと連携した宮大生のアツい挑戦に地域からの期待が寄せられている。

## 三重大学



県内高等教育機関が連携して養成する  
「三重創生ファンタジスタ」

三重大学は、2015年度に文部科学省「(地)知」の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に採択され、2016年度から、教育プログラム「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」を開始した。三重県に愛着を持った主体性のある地域のリーダーを「三重創生ファンタジスタ」として養成し、地域の課題解決を担う人材を育成する。

同事業の大きな特徴は、県内の大学などと連携した教育プログラムにあり、各教員が授業科目を一から構築し、さまざまな機関の学生が合同で履修できるように工夫した。2017年度には、3つのPBL型(※)集中講義を実施し、県内の7つの大学などから、延べ39人の学生が受講した。各教職員からの評価も高く、県内初となる教育プログラムを通じた教員・学生間交流を実現し、三重の地方創生を加速させていくプラットフォームが強化された。

※自ら問題を発見し解決する能力を身につけることを目的とした学習方法



PBL型集中講義「食と観光実践」で県内の大学などの教員が連携して学生を指導している様子。

## 京都教育大学



「デジタル連絡帳アプリ」を活用した  
家庭と学校の教育支援連携モデルの実践

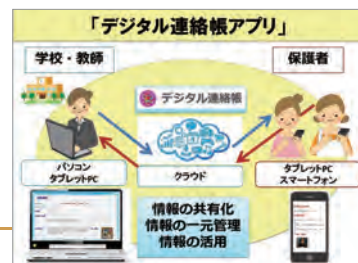
京都教育大学附属特別支援学校では、スマートフォンやPC、タブレット端末を活用した特別支援教育における全国初の教育支援連携システム「デジタル連絡帳アプリ」を活用。リアルタイムな学習情報を家庭・学校の双方から写真や動画で発信し、共有することができる。また、日々蓄積される学習情報を一元管理してデータ化し活用することもできる。

システム導入の結果、①児童の興味関心、コミュニケーション力、自尊心が高まる②家庭と学校の協働学習ができる③家族のつながり、絆が深まる④児童に対する美点凝視が継続できる⑤教育共生の姿が形成される、など、大きな成果を得ている。

同校では、さらに家庭・学校・地域がつながり、教育支援連携の強化を進めることで、児童たちの自立と社会参加に向けた教育支援の充実を目指す。

詳細は「特別支援ICT研究会HP」を参照

<https://specialsupport-ictlabo.jimdo.com/>



「デジタル連絡帳アプリ」による教育支援連携モデル

